

# 道、ときどき余白、そして交流、

## 路地に迷い込む

廊下のような細い道には人々の生活が溢れ出す

そこには唯一無二の空間が存在した

道を歩いていると心地よい生活音が聞こえてくる

道は暗いのになんとか温かい、不思議な気持ちになった

これからもそんな道が残っていけばいいのに

## 背景

近年、接道義務によって路地空間は減少している

都市計画によって整備された街では、建築は敷地境界に依存し、無意識に壁を構築する住宅地には車のためのスケールを持った広い道が介入している

それらは住宅同士の距離を離し、私たちの暮らしをまちから閉ざす要因となっているのではないだろうか

本計画では、路地空間が広がる住宅密集地において、建築基準法ではなく、**その場所に住む人々の生活や独自のルールに依存した新たな住居形態を提案する**

## 対象地域

— 愛知県知多郡南知多町篠島 —



愛知県の三河湾に浮かぶ島の一つ、篠島は、人口の約4割が漁業に携わる漁村集落である人口密度が日本の離島で2番目に高いこの島では、島の中央部の斜面に住宅が密集しており、その隙間を縫うように細い道が延びている階段や坂道、連続する屈曲で構成された細い道の多くは、車が通ることができない、いわば、**人間のための道**である

そこには島民たちの生活が溢れ出し、この島ならではの特徴的な景観が広がっているまた、島民はそのような道の中でも、住宅の間を抜ける特に細い道のことを**セコ**と呼ぶ都市計画区域外にあたるこの島では、**独自の共有意識**によって生まれた**魅力的な屋外空間**が今もなお存在し続けている



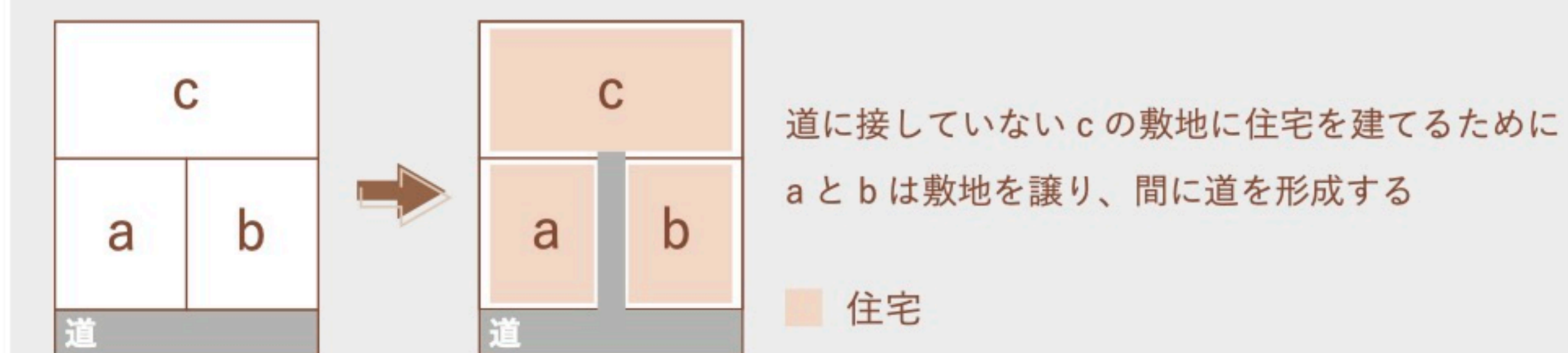
篠島の屋外空間

## 譲り合いによるセコの構築システム

篠島では隣組や朋輩（ほうばい）といった強いコミュニティが存在し、島民は助け合いながら生活を送ってきたその強いコミュニティは住宅地の形成時にも影響を与えたかつて島民たちは**敷地を譲り合い、私有地に新たな道を作る**ことで、宅地面積の少ない限られた土地に住宅密集地を形成してきたのだ

朋輩：中学の同級生のような昔からの仲間・親友

### セコの形成過程



現地調査の際に確認できた道を書き込んだ地図と公図を比較すると、公図の敷地境界線にも道が存在していることが見てとれたつまり、この島の屋外空間は、**道という公的な要素が私的空間に加わる**ことによって**公と私の境界が曖昧になっている**と考えられる



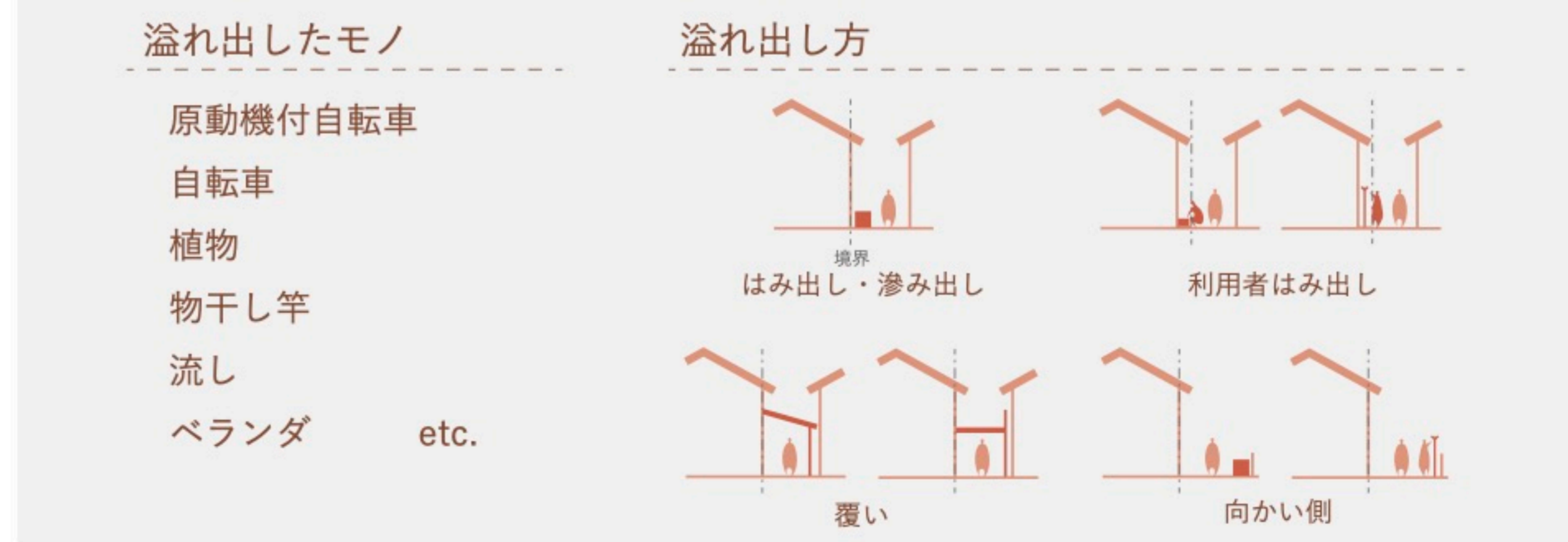
地図

公図

## 現状

— 屋外空間 —

道には様々なモノが溢れ出しており、以下のように分類された



公的空間である道に溢れ出したモノは、敷地の境界線を曖昧にするだけでなく、近隣住人とコミュニケーションをとるきっかけとなっているように感じられた

また、屋外空間の私的利用に対する島民の認識を調査した結果、島民は皆、屋外空間を**共用の場**として捉えており、自由に利用することで敷地も狭さを補うように暮らしていることが明らかになった

## 現状

— 暮らしと住居形態 —

### 暮らし

玄関の鍵をかけない  
隣人が洗濯物を取り込む  
お裾分け文化

外に対して**寛容**

### 住居形態



壁に穴を開けたような開口部をもつ住宅

外に対して**閉鎖的**

## 問題・提案

### ● 篠島の問題点

- 少子高齢化 / 人口減少
- 空き家の増加
- 高齢者と若者の交流が減少
- 他者を受け入れた暮らし方にコミュニティの衰退

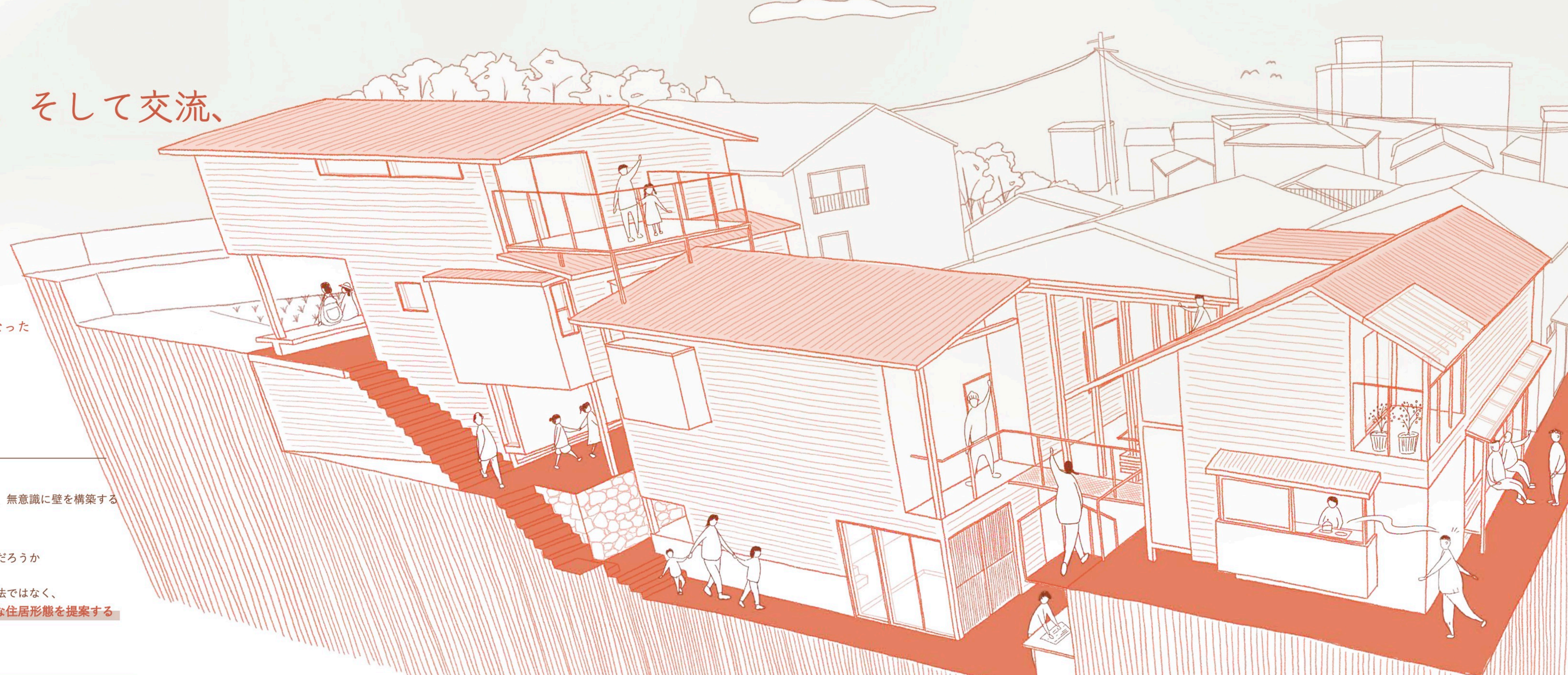
**このままでは島民の強いコミュニティから成り立つ魅力的な景観が失われてしまう**

### ● 提案

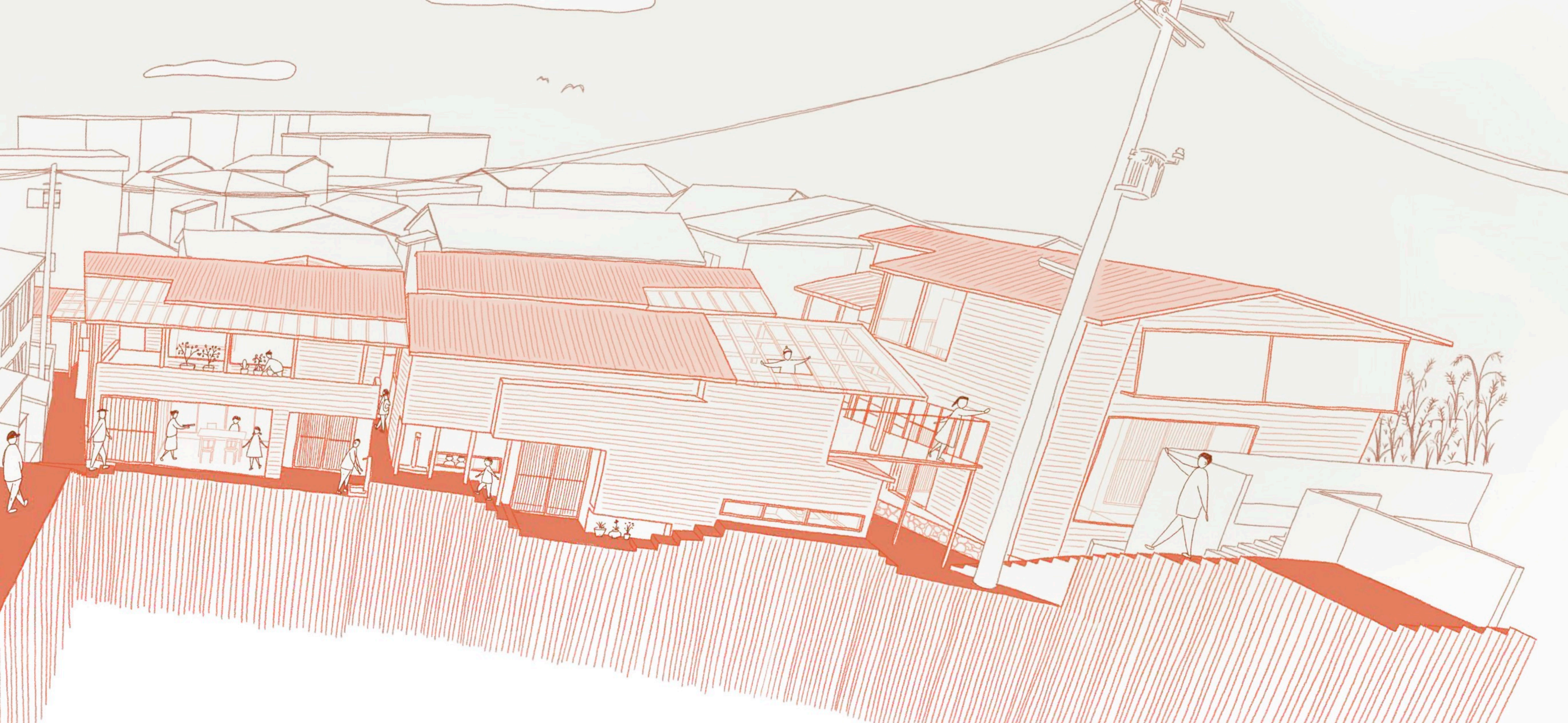
島民の屋外空間に対する考え方・人間のスケールをもった既存の屋外空間

**公と私が混在する住居構築システムの再建**  
**譲り合いの文化を活かした新たな篠島の住居群**

世代間の交流を生み出し、コミュニティを取り戻す  
建築基準法によって再建不可となり、減少しつつある路地の豊さを再考する







## 篠島の要素の抽出

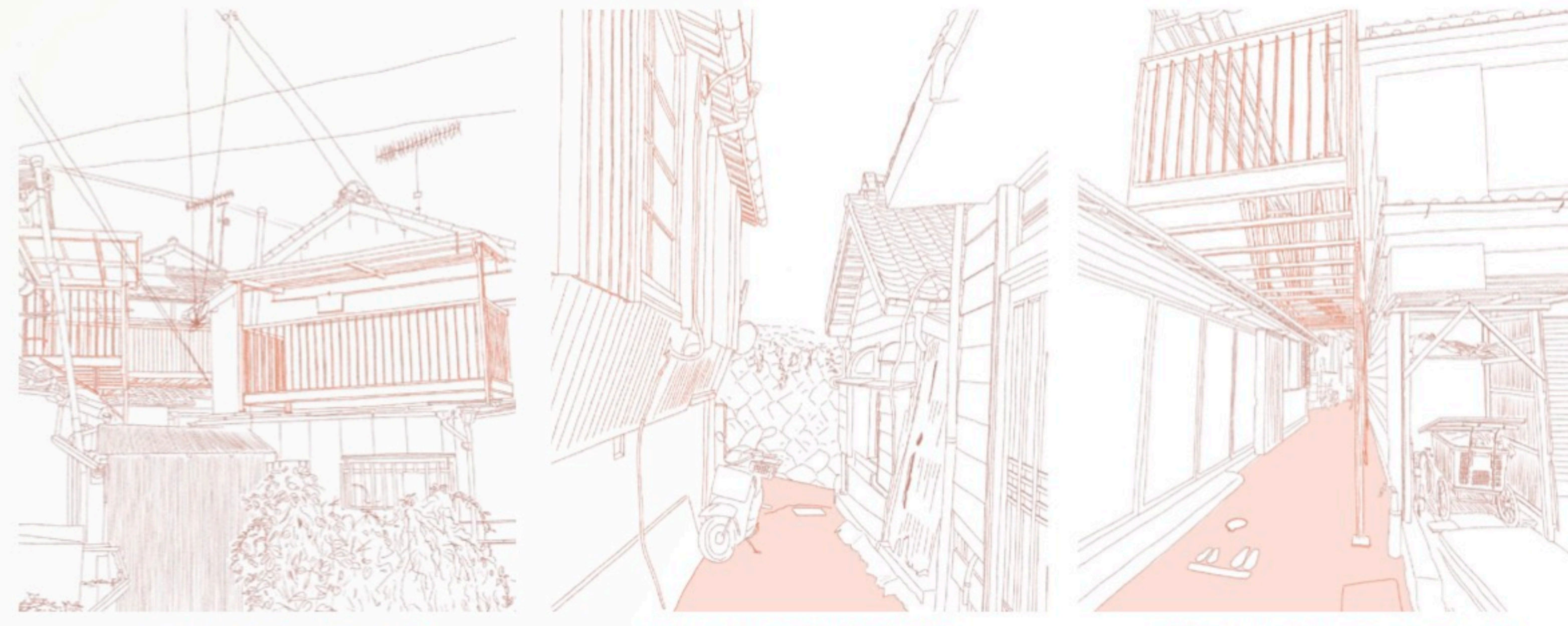
篠島の特徴的な屋外空間の特徴を抽出・分類し設計に取り入れることでこの島の景観を受け継ぐ



はみ出した建物

道の横にかかる屋根

道を覆う建物



向かい合うベランダ

道に対する建物の凹凸

道の上にかかるベランダ



重なり合う軒

道が続くことを示唆させる階段

島民によって道に置かれたベンチ

## 計画地

島の中央部にある住宅密集地



住宅が取り壊され、現在複数の空き地が広がる2箇所を今回の計画地とする  
この場所は海と山の間位置するため高低差が大きく、石垣の上に多くの住宅が建っている  
また、住宅の密集度も高いため、セコが広がっているところが特徴である

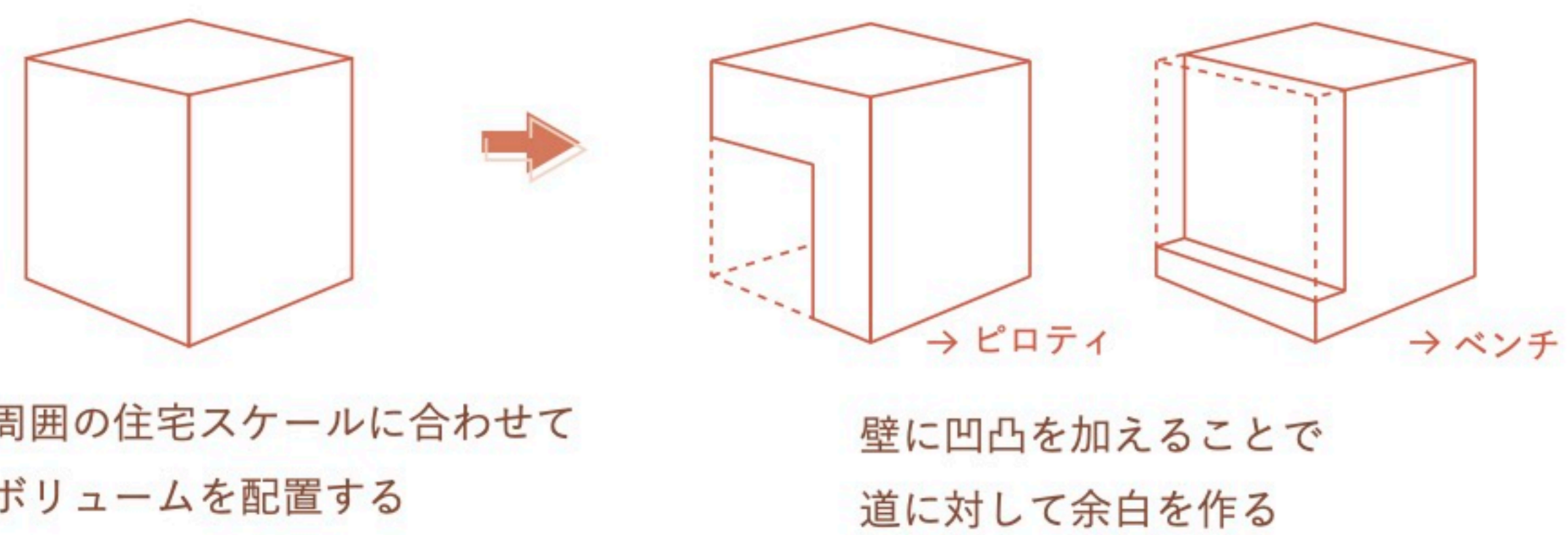


篠島では、1961年に愛知用水が通るまで井戸水を汲み上げて生活していた  
屋外にある井戸の中には個人で所有しているものと、共用のものが存在する  
島民の証言によると、多くの人が共用の井戸を使いやすくするために、**敷地を譲り合い、住宅と井戸を結ぶ道を形成してきた**という

計画地周辺には「コノワキの井戸」という共用の井戸が存在する  
つまり、ここはかつての島民にとって生活の一部のような場所であり、多くの交流が生まれていたと予想される

## diagram 1 共の空間を作る

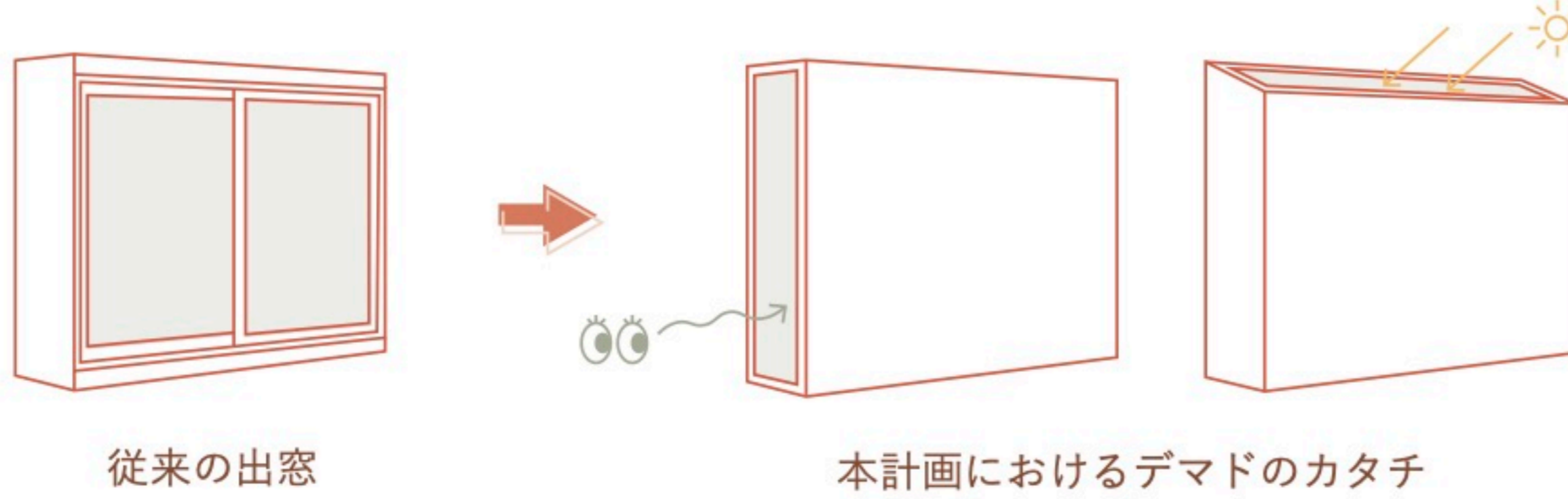
島民が敷地を譲り合い、道という共用空間を形成してきたのと同様にお互いに敷地を譲り合うことで共の空間を作り出す



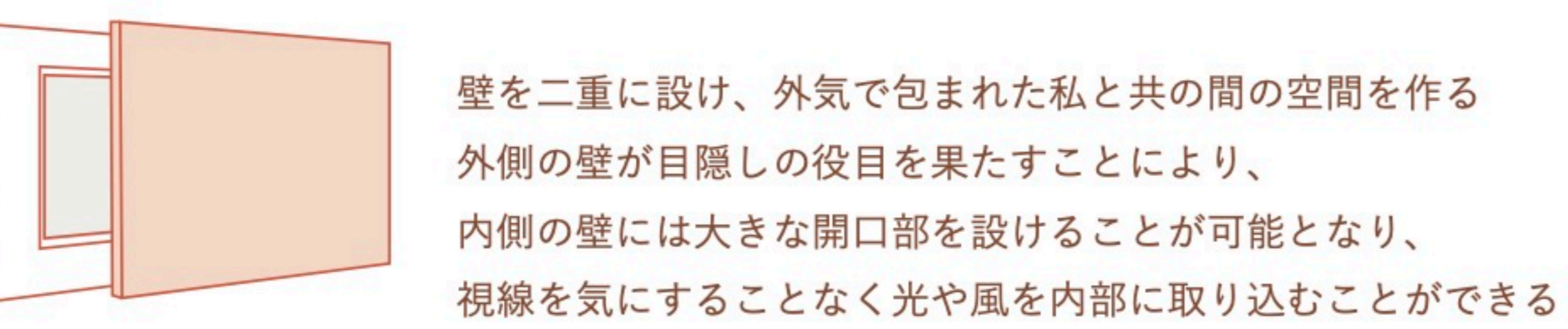
## diagram 2 開口部

### ● デマド

篠島では島特有の強風が吹くことから、特別な雨仕舞いとしてデマドが用いられてきた  
本計画では、サッシの普及により減少傾向にあるデマドを新たな形へと変換し、住宅密集地の道に対する開口部の開け方・交流のきっかけを作る要素として再考する

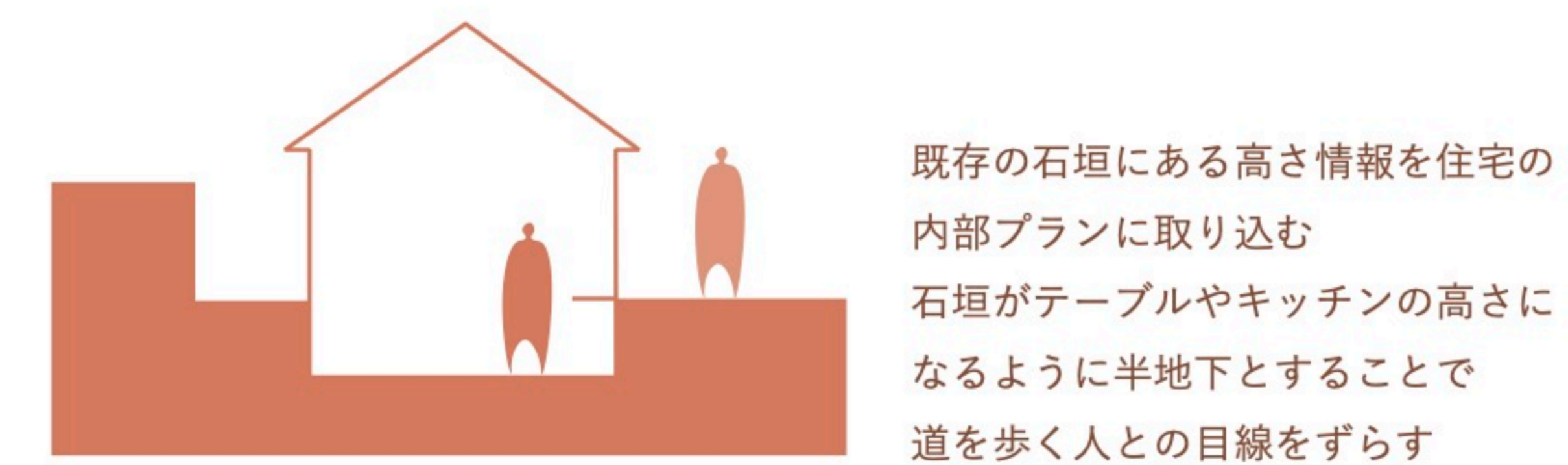


### ● 二重の壁

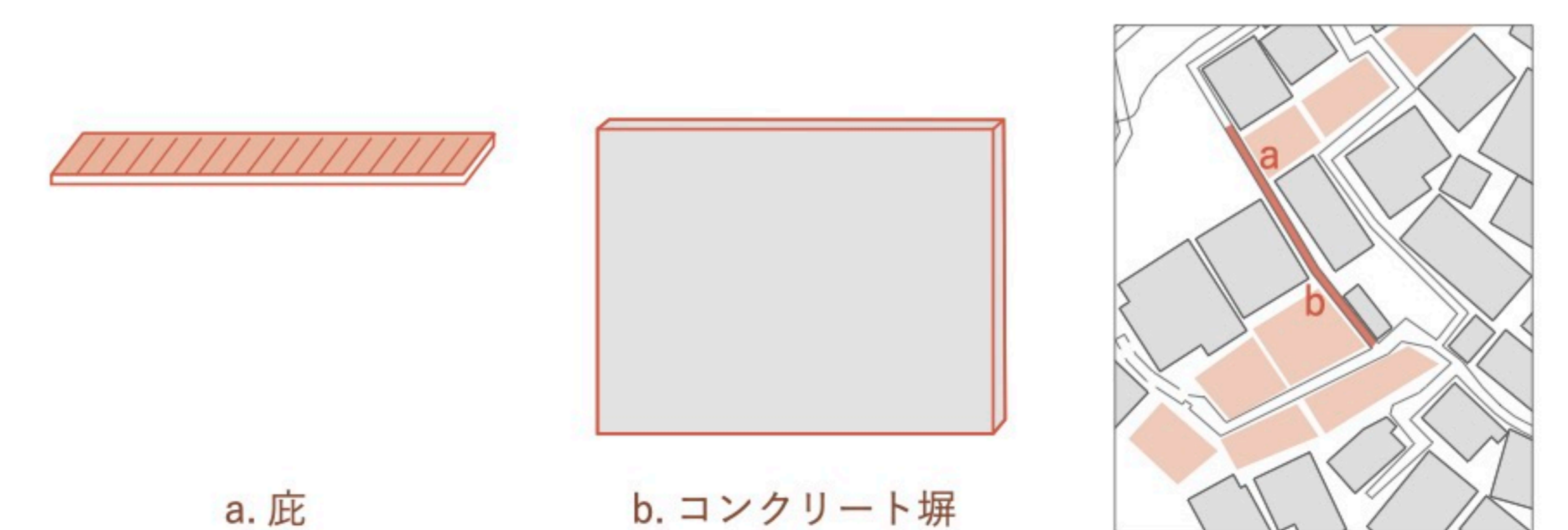


また、積極的に吹き抜け空間を作りそこに開口部を設けることで光を取り込む

## diagram 3 高低差の利用

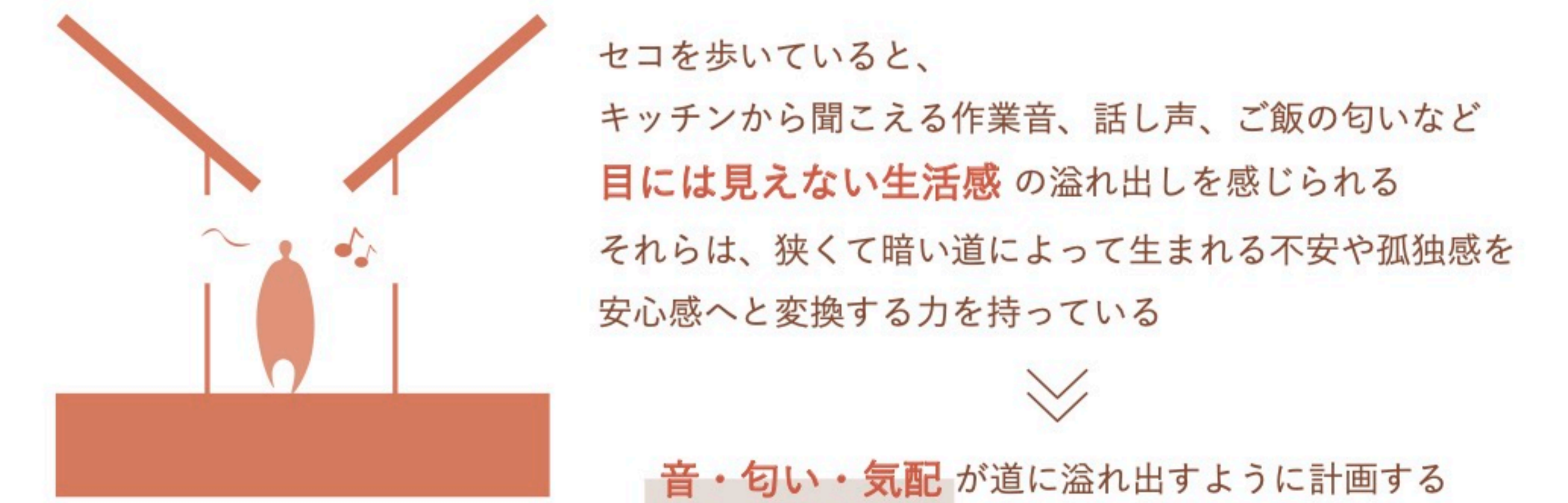


## diagram 4 二つの敷地をむすぶ

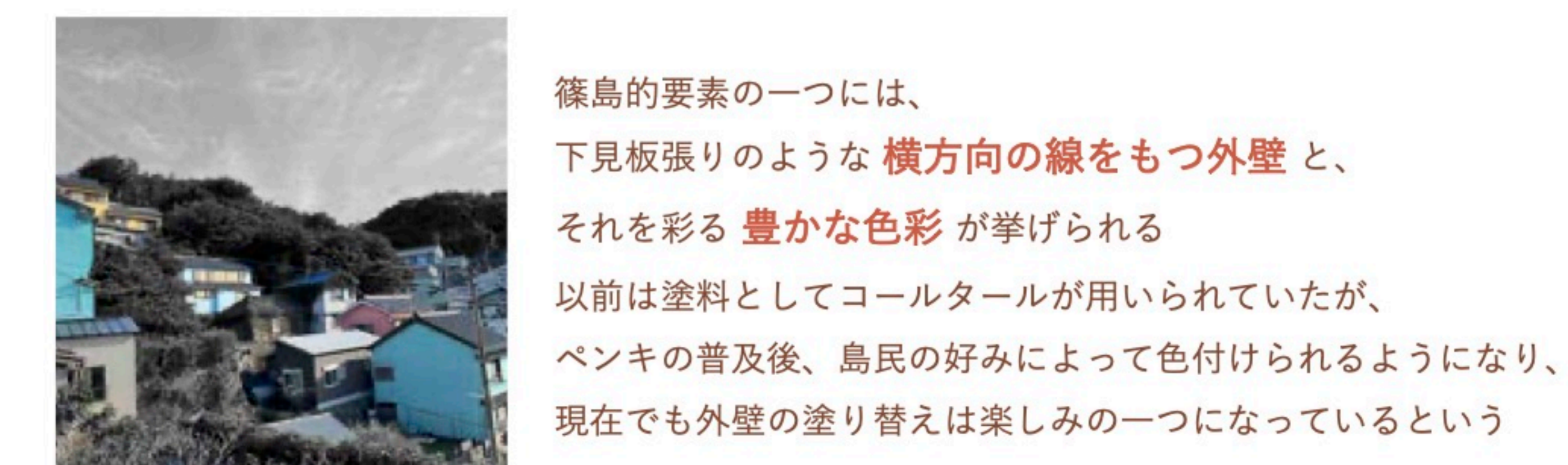


離れた二つの敷地をむすぶため、ab間の道から既存のデザインを取り入れる  
本計画では、連続する庇とコンクリート塀に着目し、道をむすぶ操作を行う

## セコを歩く空間体験



## 外壁の素材・塗装



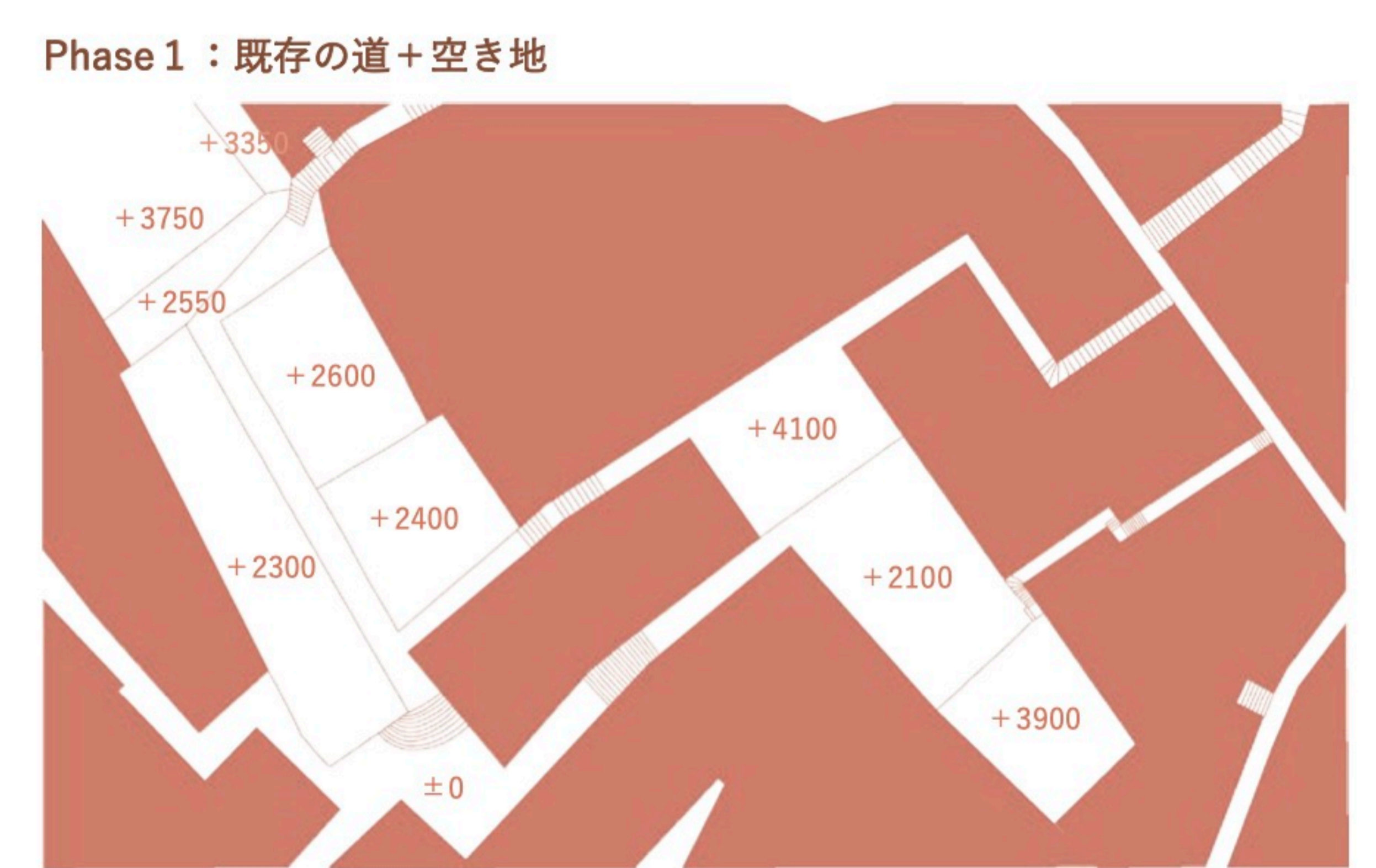
本計画では、既存の住宅に近似した外壁を用い、住人が暮らしていく中で、思い思いに色付けていくものとする





緑が生い茂る大きな開口部

diagram 5 道との関わりしる



既存の住宅は、敷地を最大限に活用するために大きなボリュームで建てられており、道に面する建物の表面積が小さいことがわかる



新たな道を作り、壁面に凹凸を増やすことで道との関わりしるを増やす。また、高低差によって離れている敷地を結ぶことで、新たな方向に人々の動線を形成する



凹凸によって生まれた余白を共用空間とする。私寄りの共用空間を設けることで私と共の境界を曖昧にする

- 私的空間
- 私寄りの共用空間
- 共用空間

